



## さらなる英語力の向上を目指して!

先月行われました秋のオープンハイスクールでは、国際総合科の説明会の中で、1・2年生の各1名が英語スピーチ（レシテーション）を披露してくれました。これは、校外で行われた神戸日米協会高校生英語暗誦大会や、兵庫県高校生英語スピーチコンテスト、兵庫県高校生英文エッセーコンテスト等の成果を中学生の前で披露してくれたものです。普通科の生徒を含め、多くの生徒が様々な場面を活用し、活躍してくれています。

今月はGTEC（Global Test of English Communication）も実施され、日々の努力を活かし、さらなる英語力の向上を目指しています。

また、国際総合科では、1月に実施される海外研修旅行（カナダ・バンクーバ）の保護者説明会（11月24日（金））も実施され、三木高校の国際交流はコロナ禍以前の姿に戻りつつあります。慌ただし毎日ですが、忙しさを充実と喜びに変え、生徒諸君は今日も頑張ってくれています！



## 探究発表会開催!

14・15日（木・金）は国際総合科科内の、また、18日（月）は第1学年全体での「探究発表会」が開催されました。

普通科・国際総合科とも、校外でのフィールドワークやアンケートなどを実施し、この日の発表会に漕ぎ着けました。斬新な視点のものや、刺激的な内容の発表も少なくなく、皆、熱心にメモを取りながら発表に耳を傾けていました。国際総合科の中で優秀なものは、来年2月3日（土）のグローバル教育発表会で校外の人たちを前にパワーポイント発表を行います。（残りの班はポスター発表。また、2年生はすべて英語での発表になります。）

なお、「SDGs Questみらい甲子園」に参加している2年生普通科の探究は3学期末に学年発表会を、また、3年生は、目下「卒業論文」の執筆に励んでおり、どの学年もいよいよ集大成の時期を迎えつつあります。



## プロジェクトマッピング♪ ～創立100周年イベント～

国際総合科や国際・探究推進部の活動とは直接には関係は無いのですが、先月下旬（11月21日）、本校特別棟の壁をキャンパスに、プロジェクトマッピングが行われました。

関西学院大学のサークル「SHADECOR（シェイデコ）」さんと一緒に取り組んで作ったものなのですが、係を担当した私（吉田）は、非常に楽しく作業を行うことが出来ました。

7月には本校生徒も交えてオンラインで企画会議をし、そこでのアイディアは実際の作品にも何箇所も活かされました。8月には2日間、終日、本校コンピュータ室等で作業を行い、花火やシャボン玉等の映像（動画）を「ゼロ」から作成しました。また、図書館の書庫で古いアルバムの頁をめくり、昔の写真を選んだりもしました（これも大いに活用されました。）。

直前のリハーサルでは、20時過ぎに職員室の窓を外したり、20時半に大きなプロジェクタを抱えて屋上に上がったり、貴重な体験をしました。それらはすべて、彼らの、「ここまで来て妥協したくないんで。」という言葉が原動力でした。4名ほどの少人数のサークルですが、彼らの向上心・飽くなき探究心はとても立派なもので、一緒に働いていてとても心地の良いものでした。皆さんとあまり年の変わらない彼ら。皆さんにも、是非あんな爽やかな青年に育ってほしいなと思いつつ、いつも彼らの姿を眺めていました。

プロジェクションマッピングの作品は、今もYouTubeで見ることができます。よろしければ、保護者の皆さんにもお知らせください。

[https://youtu.be/4baAJvdu\\_g](https://youtu.be/4baAJvdu_g)

SHADECORの皆さんの今後の活躍も楽しみです！



世の中は、常に両極端の間を揺れながら進行しています。ファッションの流行が「タイトフィット」⇄「ルーズフィット」と周期的に変わるように。そして、極端な最先端は、当時は持て囃されても、後から見れば笑いものです。

何が言いたいのか。「人間は本能ではなく価値観(意思)を基に行動するので、1つの価値観(一方の極端、物事の一側面)のみに集中して思考・行動すると愚かな結果につながる危険性がある」ということです。(20世紀の歴史がそれを証明しています。)

哲学では、極端を排した「中道」や「中庸」が重んじられます。これは「両極端の真ん中」という単純な意味ではなく、バランスの取れた「ほど良さ」「適切さ」ということです。

近頃は、極端な発言(発信)や行動が目につきます。特に「コスパ」・「タイパ」、「個人(個性)尊重」、「SDGs」などの価値観の下で、急速に「改善」が求められ、進められています。しかし、歴史的に見て流れは必ず変わります。また、流されていく中で失われるものにも目を向けなければなりません。長く続いてきた事には必ず何らかの価値があります。日々の暮らしの中で、あるいは探究活動でも、流れに乗って進みつつも、「これで本当にいいのか?」「これによって失われるものは何か? 悪影響はないのか?」よく考えましょう。

[国際・探究推進部長 田尻 淳]